※令和４年度以降入学生用

学校番号	１２０５

令和５年度　理科

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高等学校　新生物基礎　（第一学習社）						
副教材等	新課程版　ネオパルノート生物基礎　（第１学習社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

小・中学校での理科、高校１年でのＳＴ理科の学習を終えた今、生物基礎ではヒトと自然について「遺伝子」、「恒常性」、「生態系」という３つの視点から学習していきます。親から遺伝するとはどういうこと？PCR ってなに？どうしてお昼ご飯を食べると眠たいの？どうして生態系を保全する必要があるの？など日常の疑問を生物基礎の学習を通して、考えていきましょう。

２　学習の到達目標

多様な生物は細胞からなり、遺伝子としてＤＮＡを、エネルギーの受け渡しにＡＴＰを使うという共通性をもつことを理解し、人が健康に生きるには個々の細胞の働きによって内部環境が一定に保たれることが重要であること、地球上の多様な生物は気温や降水量等と密接な関係を持つ生態系を構成し物質循環とエネルギーの移動によってつながっていることに気付き、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度と、持続可能な社会づくりに貢献できる力を身につける。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・原則を理解し、知識を身に付けている。生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を修得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。	生物や生物現象の中に問題を見出し、探求する課程を通して事象を科学的に考察し、導き出した考えを適切に表現している。	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象の関係に関心をもち、主体的に取り組もうとするとともに生物の共通性と多様性を常に意識するなど科学的な見方や考え方を身に付けている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	生物の特徴	生物の共通性 生物とエネルギー	a：エネルギーと代謝について理解し、基礎的な知識を身に付けている。生物の特徴について探究し、方法を習得、的確に記録整理している。 b：生物の特徴を考察し、導き出した考えを表現している。 c：生物の特徴に関心を持ち、主体的に取り組もうとする。	定期考査	取り組み姿勢	観察・実験
	遺伝子とその働き	遺伝情報とDNA 遺伝情報とタンパク質の合成	a：タンパク質合成の仕組みを理解し、基礎的な知識を身に付けている。遺伝について理解し、方法を習得、的確に記録整理している。 b：遺伝の仕組みを考察し、導き出した考えを表現している。 c：遺伝子とその働きに関心を持ち、主体的に取り組もうとようとする。	定期考査	取り組み姿勢	観察・実験
後期	ヒトのからだの調節	からだの調節と情報の伝達 免疫	a：自律神経やホルモンとの関わりを理解し、基礎的な知識を身に付けている。体内環境の維持について探求し、方法を習得、的確に記録整理している。 b：免疫の仕組みを考察し、導き出した考えを表現している。 c：体内環境に関心を持ち、主体的に取り組もうとする、	定期考査	取り組み姿勢	観察・実験
	生物の多様性と生態系	植生と遷移 生態系とその保全	a：植生の移り変わりを理解し、知識を身に付けている。生態系と物質循環について観察等行い、観察方法等を習得し、的確に記録整理している。 b：生物の多様性と生態系を考察し、導き出した考えを表現している。 c：気候、バイオーム、生態系に関心を持ち、主体的に取り組もうとする。	定期考査	取り組み姿勢	観察・実験

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度